



\*\*\*\*\*

## 今号の内容

- ・ 10周年記念祝賀会の中止について
- ・ 論文のご紹介：MEN2 甲状腺髄様癌の早期治療の長期経過について
- ・ 私の旅日記 ～初めての海外旅行 中国～
- ・ 令和2年度 会費納入のお願い
- ・ Facebook 公式ページのお知らせ



\*\*\*\*\*

## 10周年記念祝賀会の中止について

むくろじの会 会長

酷暑と言われるような暑い毎日が続いておりますが、皆様お変わりはいかがでしょうか。日中は大変暑いのですがそれでも少しずつ日は短くなり、蟬の鳴き声に替わり、虫の音が聞こえる季節になってまいりました。



さて前号で10周年記念祝賀会を10月24日に開催すると連絡いたしました。新型コロナウイルスの感染状況を考えると、祝賀会を開催する状況にはありません。とりあえず10月の祝賀会は中止することにさせていただきます。

今後10周年記念祝賀会をどうするかについては、コロナウイルスの感染の状況等を考慮の上、役員で討議し決めさせていただきます。

例年行っておりました勉強会等も、コロナウイルス感染拡大で開催できず、患者会の活動は会報の発行だけとなりとても残念に感じております。

早くコロナ禍が終息し、以前のように皆様とお会いし励まし合えるようになることを願っております。

札幌茶話会「エゾリスの会」も中止となりました

エゾリスの会企画担当者代表

エゾリスの会は、北海道在住の会員の活動で、むくろじの会と連携して活動しています。

札幌で毎年10月に開催しておりましたエゾリスの会の「札幌茶話会」もコロナ禍で中止することになりました。来年10月には再開出来ることを祈っております。

コロナに負けず Stay Home を楽しみましょう。

## 論文のご紹介：MEN2 甲状腺髄様癌の早期治療の長期経過について

Early thyroidectomy in multiple endocrine neoplasia: a four decade experience (MEN の早期甲状腺摘出術：40 年間の経験) , E G Grubbs, R F Gagel ら, *Endocrine-related-cancer*, 2020.

菊川市立総合病院  
小児科 松下 理恵

40 年前には遺伝性甲状腺髄様癌により多くの方が亡くなっていました。この当時はまだ遺伝子検査はできなかつたためリスクの有無を事前に知ることができず、甲状腺髄様癌を根治するために腫瘍マーカーであるカルシトニン値の上昇に基づいて早期甲状腺摘出術が行われました。治療から 40 年経ってその治療方針の是非を検証した論文です。

論文の要約です。

「検証対象となったのは 100 人以上の ME2A の方が家系内に存在する J-Kindred という 1 家系です。この家系内で 1972 年から 1994 年の間に刺激試験でカルシトニン値が高値であり早期甲状腺摘出術および頸部中心リンパ節郭清術を受けた方は 27 人でした。このうち 5 人は後に遺伝子変異を持っていないことが分かっており、4 人は調査同意が得られなかったため調査対象となりませんでした（この 4 人は健康で癌の進行はありません）。

調査に参加した *RET* 癌原遺伝子変異 (C634G) を有する 18 人；甲状腺摘出時の年齢中央値は 16.5 歳（範囲 9～24 歳）、追跡調査期間中央値は 40 年（範囲 21～43 年間）、調査時年齢中央値は 52 歳（範囲 34～65 歳）、において、現在の血清カルシトニン測定および頸部超音波検査により早期治療の評価がされました。18 人のうち 15 人は再発していませんでした。3 人は生化学的再発（腫瘍マーカーのカルシトニンだけ上昇しており実際の癌が認められない段階）をしていました。長期に進行がみられない場合は再発後に進行することは極稀です。生存期間の解析では、カルシトニン値に基づく早期甲状腺摘出を受けた方では甲状腺髄様癌による死亡は認めず、それ以前の世代では髄様癌による死亡がみられました。早期の甲状腺摘出術と中心リンパ節郭清が遺伝性甲状腺髄様癌の効果的な予防治療でした。」

論文の最後に “この研究の重要性” という項があります。そこには次のように書かれています。「腫瘍マーカーのカルシトニンにより甲状腺早期摘出術をおこなった小児と若年成人の 83% 以上で、再発しなかったことは非常に重要です。しかし、この *RET* 変異では 10 歳未満の子供であっても転移が起こる可能性があり、子供の甲状腺摘出術の適切な年齢を決定する親（および医師）は、リスクと利益に範囲があることを理解しなければなりません。最後に、6 歳の甲状腺髄様癌の転移の報告例がありこの調査でも 9 歳の子供に転移が認められているため、*RET* のハイリスク変異を有する小児において 5～6 歳での甲状腺摘出術が現在推奨されていることは妥当と考えます。

前回の調査から 20 年以上も会っていない家族の多くと交流する中で、彼らとその子供たちが転移性のがんや褐色細胞腫による自分や家族の死の可能性を考えなくてもよいという確実な安堵感は非常に重要であると認識しました」

皆様はこの論文を読んでどのように考えられたでしょうか。私は9-24歳で手術をしてもカルシトニン値に基づいて甲状腺の早期摘出をすれば40年以上明らかな再発が誰にもなかったという事実に大変勇気づけられました。一方、遺伝子検査ができる現代ではないことですが家系内の5人の方が正常甲状腺を摘出されてしまった治療でもあるので、この論文の著者が家族の方と交流する中で癌から逃れる安堵感が重要と考えたこともとても大事だと感じました。私にも元気で癌との共存を受け入れているように見えた子で、癌の恐怖は医者が考えるよりはるかに深いのだと心底思い知らされた経験があります。

小児の甲状腺摘出をするような病気はとても少ないためどの国でもほとんどの外科の先生は小児の甲状腺手術に慣れていません。子どもの甲状腺や副甲状腺は大人と弾力や組織の結合の強さも違いサイズも小さいため、同じ癌の進行度で比べれば年齢の小さい子の手術合併症の方が高くなります。ただし、年齢が若い子の方が一般的に転移のリスクは少ないため、特に5歳以下では発症していてもカルシトニン値40pg/mL以下であれば頸部リンパ節郭清をしなくても根治すること、甲状腺だけ摘出した場合では手術合併症は低くなるのがアメリカ甲状腺学会のガイドラインには記載されています。しかしながら日本ではまだ6歳以下の甲状腺手術を経験されている施設や外科の先生は海外以上にごくわずかで、こどもの甲状腺手術の手術合併症がどの程度になるか予後は本当によくあるのかをはっきり示すことはできません。

日本ではMEN2の小児期の手術合併症や予後に関するデータがほとんどない中なので、主治医やMENコンソーシアムの先生、他の当事者の方や海外の論文などから情報を得ながら、家族や未来の本人が大事だと思うであろうこと（合併症、根治、QOL、仕事、進学、個人のキャラクター、費用など）を丁寧に互いに相談しながら方針を決めていくしかないだろうと思います。そこには個々にとっての最善の選択はありますが唯一の正解はありません。それから手術したら甲状腺ホルモンの内服が必須なので癌と違って外から調節はできますが早く手術すればそれだけ甲状腺ホルモンの内服期間が長くなってしまふことや見た目を気にする小児期思春期に頸に傷ができることも小児期甲状腺手術の大事な問題です。

私は、発症したら（=カルシトニンが上昇したらの意で使っています）手術治療を待つメリットはごく小さいと思っていますが、もし発症したのが手術合併症の多い3歳以下だったら？手術合併症によって気管切開をし声を失うかもしれないリスクもあり、その場合地区の小学校への通学も難しくなるので、進行が比較的遅い髄様癌に対して体が大きくなるのを何年か待つ相談をするのかもしれない。

早期治療や予防治療については、情報を整備していくこと、丁寧にお互いに話合いができる環境を整え shared-decision-making(\*) していくことがとても重要だと感じる論文でした。

shared-decision-making(\*)：共有意思決定、協働的意思決定と訳されることもある医療側のエビデンス提示と当事者側の環境や意志を相談しながら、医療側と当事者が協働して最適な治療を決めていく医療の進め方

旅行が好きである。しかし半年前から海外はおろか国内旅行でさえ行きづらくなってしまった。一時は県をまたぐ旅行は自粛するよう言われたが、今は行こうと思えば行けるようになった。でも気分がのらない。どうせ行くのなら晴れやかに行きたい、心から楽しく行きたい。だから今は行かない。気分がのらないというより気分が委縮してしまっているのを感じる。私の Go To はまだまだ先になりそうである。

そんな日々のなか、私のちょっとした旅の思い出を振り返ってみようと思う。

まず、中国である。

中国は今まで6回行っている。中国が大好きなのね、と思われるかもしれないがそれほど大好きという訳ではない。それは近くて安くて簡単に行けるからである。しかし、中国4千年の歴史と言われるように中国は圧倒的な歴史的遺産の宝庫である。日本の文化・宗教・政治・教育などあらゆるものに大きな影響を与えているのは言うまでもない。

私の初めての海外旅行は1977年、毛沢東が亡くなって1年後の中国である。1978年に日中平和友好条約が締結される前の中国であり当時はまだ日本との国交が回復されておらず個人での訪中は認められてはいなかった。それではそんな中国になぜ私が行けたのか。

それは個人では行けないが日中の友好団体なら行けたのである。当時私は小学校へ勤務していて組合の青年部の役員をしていた。当初はほかの役員が行く予定だったが、その人が奥様の出産予定日と訪中が重なることがわかり急遽私にお鉢が回ってきたのである。即快諾。初めての海外旅行、嬉しい～。しかし、この旅行は単なる観光旅行ではなく、あくまでも中国人民との友好を深め、学校・農村・工場等の視察研修が目的の旅行であることを言い渡された。

訪中の前には中国の歴史・文化・政治・教育などの事前学習会へ参加し、にわか中国通となる。そして、「東方紅」という毛主席を称える歌もみんなで習った。この歌は中国へ行ってから交流会などで何度も歌ったので唯一私が中国語で歌える歌となった。また、中国の各都市でこの歌は朝と夕方、ちょっとガーガーと割れる音とともに大音量でスピーカーから町中に流れるのを聴くことになる。

数回の学習会を経ていよいよ文化大革命の熱が冷めやらぬ中国に出発した。

小中高等学校教職員31人の団体の中で私は最年少、26歳の夏であった。そのほとんどが組合関係の人であり日中友好に関心のある人が多い中、私のように観光気分の人でも若干いて少し気が楽になったのを覚えている。

当時は日本と中国の直通便はなく香港を経由して鉄道で深圳から中国に入った。15日間の中国の旅の始まりである。

きらびやかな香港を見たせいか緑が広がる農村風景はなんともどかなもので、牛を使って水田を耕している人々の姿があちこちで見られる。

その頃の中国は農業も工業も機械化・近代化はまだ先のことで人海戦術での作業が中心であった。私たちの乗った列車はこげ茶色の車体で、いかにも中国の広い大地を走りそうな無骨な顔をした列車だった。

私たちの座席車両は「軟座」と呼ばれ日本でいうグリーン車、昼食をとるため食堂車に行くのに「硬座」という車両を通っていくと3人掛けの木製の座席に窮屈そうに座っている人、立って

いる人、床に座っている人などがいる。私たちが通るので道をあけてくれるのだがなんだか申し訳ない気分になる。ちょうどお昼時だったので人々はそれぞれ持参したパンのようなもの、野菜と麺を炒めたようなもの、停車駅で買った肉まんのようなものを食べていて列車の中は食べ物のおいと人いきれでむっとしていた。そんな中、私たちはゆったりした食堂車で服務員の接待を受けコース料理を食べた。

そして、この旅行で私たちはどこに行っても「熱烈歓迎」され、今まで経験したことのないようなVIP待遇を受けることになるが、しかしそれは常に後ろめたい気持ちを抱かせるものであった。

いくら外国から来た友好団体であってもここは「人民みな平等」であるはずの中国なのだ。雑技団や京劇、映画に招待された時も大勢の人がかなり長い時間待たされているのに私たちは始まる直前に入場し最もよく観える席で、白いカバーのいかにも高級そうな席が用意されていた。休憩時間になると、劇場の応接室に案内されお茶をふるまわれるのだが、そろそろと歩く私たちを見る人たちの目は決して友好的なものではないことを私は微妙に感じていた。

旅行のあいだずっと通訳をしてくれた3人の男性の他、各都市・各見学場所にそれぞれ案内説明役としてガイド数人がついてくれた。初日から最終日まで同行してくれた通訳は、王さん、周さん、魏さんという男性3人だが、この3人の日本語の正確かつ完璧なことに感服した。日本への留学経験もないのに日本のことわざ、世相なども勉強していて、リーダー格の魏さんは「紅衛兵の紅は丸紅の紅です。」(この頃ロッキード事件が世間を賑わせていた)などと説明して私たちを笑わせたが、これはほんの一部である。毎日日本の主要新聞を読み、大学卒業後独学で学んだというから驚きである。この3人は礼儀正しく控えめで私たちのどんな質問に対しても真摯に答えてくれ、答えられないことがあると調べたり勉強したりしてきて次の日にはちゃんと答えてくれた。

余計なことだが、一番若い周さんは長身に黒色の人民服がよく似合う、今でいうイケメンの好青年だった。日本語がペラペラでエリートの周さんはきっと若い女性にもてたことだろう。旅行の途中で周さんの目にゴミか何かが入ってしまい、ちょっと見てほしいと私(まだ新米の経験不足の養護教諭である)が頼まれたことがあったが、間近で見る周さんはやっぱりドキッとさせるイケメンであった。私のなかでは、今まで中国で見た男性の中でダントツの「輝け美男子ナンバーワン」である。

街をいく人々の服装を見ると男性は黒色の人民服か開襟の白ワイシャツに黒のズボン、刈り上げた短髪。女性は白いブラウス風ワイシャツに紺か黒色のズボン。髪は若い人のほとんどが三つ編み、年配の人は短髪か短髪のパーマで化粧っ気はなし。靴は男女とも黒い「ズック靴」(綿で作った厚手の布の靴)を履いていて全体的に地味でおしゃれとは程遠く、着飾ることは資本主義社会の退廃文化だという思想なのだろうか。まだまだこの頃の中国は経済発展の途中であり、おしゃれにける余裕がないと思われた。これは服装だけでなく、夜になると街がやけに暗い。街灯も家々もオレンジ色の明かりがぼおっと控えめに点いているだけだった。少ない街灯も薄暗い電球も電力事情によるものだろう。しかし、大都市には「友誼商店」という海外の客を対象にした国営の大きな土産物店があり、そこだけは明るく陶磁器・掛け軸・筆・墨・扇子・刺繍製品・民芸品・衣類・食品などを売っていた。普通の百貨店に行きたいとお願いしたら短い自由時間に連れて行ってもらえたが、大きな百貨店もやはり薄暗くここでも電力は極力節電を実践している

ようであった。

私たちが宿泊したホテルはどこも超一流で重厚な大理石造りであった。礼儀正しい服務員と呼ばれる若者たちが大勢働いていた。休憩時間には何人か集まり階段の片隅などで毛沢東語録の学習をしている姿をよく見かけた。この頃の中国の若者にとって毛沢東語録は自分たちの、中国の未来のバイブルであったと思われる。

今でこそ毛沢東の功罪は誰もが知るところだが、私たちが訪れたころの毛沢東は「神」のような存在で人民公社、学校、工場などでの交流会で質問をすると必ず「毛主席はこうおっしゃっています。だから私たちはこう考え、こうしています。」という答えが返ってくる。心からそう思っていたのか前置きとして言う習慣がついているのかはわからないが、あの頃はそれが当たり前のことだったのだ。

中国はまたスローガンの国でもあった。街のあちこちには大小のスローガンが掲げられ、漢字を読むとなんとなく分かる言葉もあった。

よく目にしたのは「自力更生」「刻苦奮闘」という人民の労働を鼓舞するもの、「農業学大寨・工業学大慶」は、自力更生で開拓した精神が評価され「農業は大寨に学ぼう」、油田が発見された大慶は工業の模範となり「工業は大慶に学ぼう」と毛沢東が呼びかけたものである。大寨市と大慶市には行かなかったが、人民公社・工場の見学や座談会を通してこれらのスローガンが労働者の大きな目標になっていることに感心する。やはり毛沢東の言葉は絶対なのだ。

私たちは教育友好団体なので、いくつかの小学校・中学校を訪問し授業参観・歌舞交換会・座談会・放課後活動見学など児童生徒や教師との交流を行った。

授業では、教師の質問にはきびきびと答える子ども達。指名されてもモジモジしているものはおらず実にお利口そうな子ども達ばかりであった。課外活動の様子も見せてもらったが書道部の中学生のすばらしい筆遣いに旅行団の書道の先生も驚いていた。また、小学校では合奏と歌を聴かせてもらったがどの子も自信に溢れたにこやかな顔で小学生とは思えない演奏ぶりであった。外部からの参観があるとより良い姿を見てもらいたいというのは私たちも同じだが、これだけエリート教育を受けた特別な子ども達が次から次へと出てくると正直「普通の子どもの普通の授業を見たい・・・」という気持ちになった。

今になれば、今後国交を回復して「新しい友人」となるであろう日本の友好団体に今できる精一杯のおもてなしをしてくれたのだろうと思う。

あれから 40 数年。中国は飛躍的な発展をとげ「大国」と呼ばれるようになった。経済はもちろん文化・教育・工業技術・IT 産業・軍事において良くも悪くも世界のトップに並ぼうとしている。いやもうトップを走っているといつてもいいかもしれない。

誰もが幸せになれるという社会主義思想を掲げた中国は今どこに向かおうとしているのか。



テレビで映し出される天安門広場と毛沢東の巨大な肖像画を見るたびに若かりし頃のちよつと「中国かぶれ」の青二才の私になつかしく思い出される。

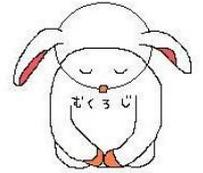
## 令和元年度 会費納入のお願い

まだ本年度の会費を納入されていない会員の方は、会費納入をお願いいたします。

- |            |                   |            |        |
|------------|-------------------|------------|--------|
| ・年会費       | 3,000 円           | ・口座名称 {漢字} | むくろじの会 |
| ・振込先       | ゆうちょ銀行            |            |        |
| ・口座番号      | 00580 - 7 - 69209 |            |        |
| ・口座名称 {カナ} | ムクロジノカイ           |            |        |

他銀行からの振込みをされる方は以下の内容を指定願います。

- |          |         |       |    |
|----------|---------|-------|----|
| ・店名 (店番) | 059     | ・貯金種目 | 当座 |
| ・口座番号    | 0069209 |       |    |



## Facebook 公式ページのお知らせ <https://www.facebook.com/mukurojinokai/>

むくろじの会では、公式の Facebook ページを開設しています。

Facebook の検索窓で、「むくろじの会」と入力するとすぐ見つかります。

Facebook をご利用の方は、ぜひ「いいね！」ボタンを押していただき、フォローをお願いします。

勉強会や関係団体の情報、会の活動等を発信しています。

また、友達へのシェア（拡散）もお願いします。

## 編集後記

むくろじの会、エゾリスの会共に、集会を見送ることとなりました。皆様とお会いして、情報交換の場が持てないことがとても残念です。そこで、コロナ禍の今だからこそ本会報が「患者と家族の交流の場」となればと思います。

次回会報の発行は、12月12日を予定しています。会報の掲載文章に関するご希望、興味のあるテーマ、私の Stay Home 術の紹介など、なんでも結構です。是非10月末ほどまでにご意見をいただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

(東京秀吉)

## むくろじの会事務局/むくろじ編集局

〒396-0111 長野県伊那市美篤 (ミズ) 5093-4 伊東 幸子宅

電話/FAX : 0265-78-3756 e-mail : [kiiroicosmos@samba.ocn.ne.jp](mailto:kiiroicosmos@samba.ocn.ne.jp)

むくろじのバックナンバーは <http://men-net.org/mukuroji/newsletter.html> からダウンロードできます。

むくろじの会公式の Facebook ページを開設しています。 <https://www.facebook.com/mukurojinokai/>

Facebook の検索窓で、「むくろじの会」と入力してください。